

人体が美しく健康でなくてはならない。現代日本女性の体格は著しく向上し、頭身示数においても西欧女性に近づいてきた感がある。また8頭身美人などとさわがれ、頭身示数が多いほど美人であると考えられたりしたようである。人体美の基準は、時代・国家・風俗・習慣・性別・年齢 etc. によってそれぞれ移り変わったり異なったりすると考えられる。いったい美しく健康な女性の体型とはどのようなものかを考察し、少しでもそれに近づけるような考慮がなされるべきであろう。以上のことから被服の基礎的研究の一つであるべき人体に対して、より堅実な被服構成の理念を一般に啓培したいと思い、人体の Proportion の中から頭身示数の問題を選んだのである。

2. 浮世絵の最も発達した江戸時代・中末期の名作家の作品の中から美女の作例を抽出して、その頭身示数を計測し、現代の Style 画の頭身示数と比較してみた。

3. 両者が全く異なる空間と時間とにおいて発達したものであるにもかかわらず、身体を華奢にして細長く強調している点が一般の考える女性美として全く共通である。しかし、それがあまりに通俗化し普遍化して、そのような容姿に一般が感溺するようになると、身体に真に適応する健全な被服としての意味から考えて、不健康・病的な傾向を生じることを戒めなければならないと思われる。

## B-30 女性の Proportion に関する人体美学的考察

### 浮世絵の美女と Style 画との頭身示数の比較

京都女子大 勝谷 弥生

1. 衣服を美しく着こなすには、まず土台となるべき